

大気浮遊じんの放射能濃度測定結果

問合せ 生活環境課 ☎24-5231

ちりやほこりに付着した放射性物質の飛散状況を調べるため、市内10地点で収集した大気1m³あたりの放射性物質の濃度を測定しました。

測定地点		放射能濃度 (mBq/m ³)		
		4/21~4/28	4/14~4/21	
小高区	川房公会堂 (川房)	セシウム134	不検出	不検出
		セシウム137	0.032	0.051
	金房小学校 (飯崎)	セシウム134	不検出	不検出
		セシウム137	0.031	0.022
	塚原公会堂 (塚原)	セシウム134	不検出	不検出
		セシウム137	0.029	0.016
原町区	横川ダム (馬場)	セシウム134	不検出	不検出
		セシウム137	0.024	0.032
	原町保健センター (小川町)	セシウム134	不検出	不検出
		セシウム137	不検出	0.034
	高平生涯学習センター (下高平)	セシウム134	不検出	不検出
		セシウム137	0.015	0.029
	市立総合病院 (高見町)	セシウム134	不検出	不検出
		セシウム137	0.028	0.032
	大原公会堂 (大原)	セシウム134	不検出	不検出
		セシウム137	0.040	0.028

測定地点		放射能濃度 (mBq/m ³)		
		4/21~4/28	4/14~4/21	
鹿島区	鹿島区役所 (西町)	セシウム134	不検出	不検出
		セシウム137	0.018	0.027
	鹿島区3-3消防屯所 (南海老)	セシウム134	不検出	不検出
		セシウム137	0.014	不検出

※検出限界値はおおむね0.02~0.03mBq/m³の範囲にありますが、測定サンプル毎に変動します。そのため、データの記載がない日は、放射能濃度が検出限界値未満の値であり「放射能不検出」と判定されます。

● 渡邊正己 京都大学名誉教授
(市放射線健康対策委員会委員長)による解説●

令和3年度からの解説は、6月、10月、2月の年3回と、測定値に顕著な変化がある場合に行います。

今回は、令和3年度の第1回目の解説になります。原発事故により、環境中に放出された物質で、主に問題となるものは、ヨウ素131、セシウム134、セシウム137の3種類で、そのほかにも様々な物質が放出されましたが、いずれも半減期が短いか放出量が少なく、健康影響はほとんどありません。ヨウ素131とセシウム134は、半減期が短く、今は観測されなくなりましたが、半減期30年のセシウム137は、0.05mBq/m³程度の低い濃度で観測され続けています。この量のセシウム137の放射線による健康影響について心配はいりません。